



〈サロン・あべの〉1月の出会い

午前中にみぞれ混じりの雨が降った寒さ厳しい平成16年1月17日(土)午後1時〜4時、〈サロン・あべの〉は1月の出会いを育徳コミュニティセンター2階研修室で開催しました。

この日は、福祉イベント夢企画『結』(代表〓仲川一昭)さんに企画・提供していただいた新しい試みの「音と香りのハーモニー in サロン」新春癒しの音楽会〜でした。

会場のレイアウトもがらりと変え、机をなくし室内を広くして椅子を窓方向に向けて座っていたいただきました。室内の四隅にはアロマテラピスト・精英樹さん用意のアロマバーナーが置かれ、ほのかな灯りがゆらぎ、その中で密やかな「柚子」の香りが立ち昇りました。その香りに室内全体が包み込まれた頃、「アンダ

音と香りのハーモニー in サロン

〜新春 癒しの音楽会〜



会場に柚子が香る中、アンダンテのみなさんの演奏



アロマテラピスト：精英樹さん

ンテ」さん4名による「音と香り
コラボレーション 新春コン
サート」が始まりました。「アン
ダンテ」さんは、八尾フィルハー
モニー交響楽団で活躍中の女性
4名（フルート・早川ちえ、ヴァ
イオリン・西岡韶子、ビオラ・山
田朱美、チェロ・大島千代）のグ
ループです。リーダーの早川さ
んの曲の説明や、それにまつわ
る話を交えての進行で、4人の
奏でる懐かしい曲に耳を傾けま
した。また、よくご存じの歌ばか
りで、皆さん、声を合わせ、リズ
ムに乗って楽しむことが出来ま

した。

プログラム

*花

*ボツケリーニのメヌエット

*青い山脈（皆で歌う）

*瀬戸の花嫁（皆で歌う）

*いい日旅立ち（皆で歌う）

*ラ・クンパルシータ

*エデンの東

*雪（皆で歌う）

*七つの子（皆で歌う）

*川の流れるように（皆で歌う）

*見上げてごらん夜の星を（皆

で歌う）

*故郷（皆で歌う）

●アンコール

*世界に一つだけの花

（紅白歌合戦でスマップがト
リを勤めた歌ということで、
紅白の気分を味わいました）
ご無理をお願いして、

*花

をもう
一度。

休憩

の後、

演奏者

を囲ん

で、参

加され

た皆さ

ん方と

音楽談

議や耳

新しい

「アロマテラピー」の話に花が咲

きました。クラシックに詳しい

方、地域の生涯教室でコーラス

を楽しんでいる方、映画音楽か

ら時代を思い出される方、童謡

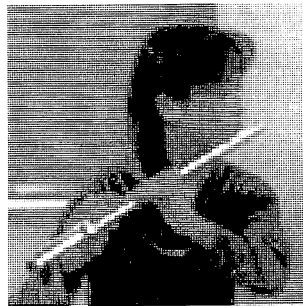
を歌う会や第九コーラスに参加

されている方、また中国楽器二

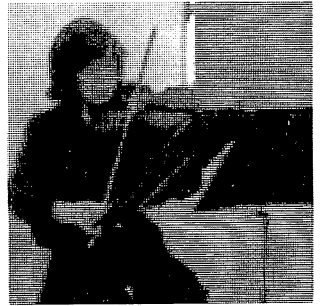
胡（胡弓）演奏に取り組んでいる

方、などなど幅広いお話をして

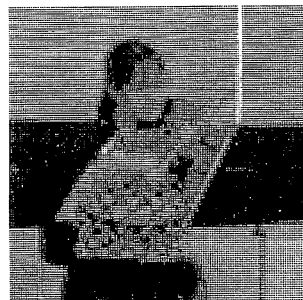
いただきました。皆さんそれぞれ



フルート：早川ちえさん



ヴァイオリン：西岡韶子さん



ビオラ：山田朱美さん



チェロ：大島千代さん

れ、ご自分の音楽を楽しんでお
られました。

また、精英樹さんからは、香り
の楽しみ方を教えていただきま
した。香りは多種類あり、今回の
ような和の香りでは、「柚子」や
「ヒノキ」、他に「ヨモギ」がある。
自分の好きな香りを見つけて、
初めはゆるい香り、弱い香りを
聴くことから試みるのがよい。

慣れてくれば浴槽に入れたり、

全身トリートメント（体調を考え
て専門家に相談するのがよい）を
していくのも良い。香りには癒し
効果があり、脳が香りに刺激され
るとストレスが緩和される。企業
でも就業時間によって、香りを選
んである所があるそうです。

柚子湯も アロマテラピー

アロマテラピーというのは、
アロマⅡ香りとセラピーⅡ療法
という二つの単語から造られた
言葉で、つまり、芳香療法とい
うことになります。

アロマテラピーの歴史は古く、

柚子の香りで全身を包まれて
リラクセスした脳は、リズムカ
ルな曲と懐かしい歌を歌う事
でも活性化して、身も心も温
まったサロン1月の出会いでし
た。（参加者20名 富田慶子）

約4000年前古代エジプト時
代に遡ります。当時、香りは宗
教儀式での薫香として、ミイラ
を作るときの防腐剤として、ま
た病気の治療や予防・化粧にも
使われていたようです。その後
アロマテラピーの研究は進ん
で、芳香療法として使われるよ
うになってきました。要する
に、植物の持つ素晴らしい力を
使って身体的にも精神的にも良
い作用を与えていくこうという
のがアロマテラピーなんだそう
です。

アロマテラピーの効果のメカ



音と香りのハーモニーに癒されたひととき

れるもの。

とかなんとか、む
ずかしいことはと
もかくとして、昔
から人は「いい香
りだな」「心地よい
な」と、アロマテラ
ピーらしきことを
して来たようです。

例えば、「冬至に柚
子風呂に入る」風
習があります。シ
トラール、リモネ
ンが血行を促進し
たり、新陳代謝を

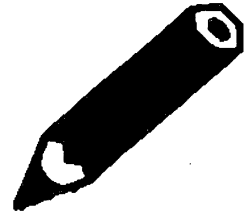
ニズムには、三つあります。
1 香りが鼻から脳の中核に届
き、心身に働きかけるとい
うもの。
よくしてくれるという、これこ
そ科学に裏付けされた香りの効
果ですよね。

2 同じく鼻から肺に届き、そ
こから血管を通じて全身に
成分が運ばれるというもの。
今日、新陳代謝の話を聞くと、
身近なところで、知らず知らず
に私たちはアロマテラピーを体
験しているのだという発見が出
て、何だかうれしくなりまし
た。

3 皮膚から吸収され、体液の
流れで器官や組織に拡散さ

(石)

1



邦子、 ..ん歳の手習い。

今回からこのコーナー担当の定藤邦子です。

頸椎損傷者であった夫・定藤丈弘が亡くなって5年の月日が経ちました。私は夫が亡くなってから、社会人編入で立命館大学の政策科学部に3回生編入し、卒業を経て、現在、政策科学研究科博士前期課程の2年生です。それまでは全く勉強などとは無縁の生活で、勉強を始めたばかりですが、夫生前中の20年間の介護経験と夫との日常生活のエピソードを交えながら、現在勉強している事などを皆さんにお伝えできればと

思っていますので、よろしくお願ひします。

ノースシヨア身体障害者

リソースセンター①

昨年11月上旬(11月3日〜12日)にカナダのバンクーバーに留学中のゼミの先生を訪ねて、ゼミ有志によるカナダ研修旅行に参加しました。今回はその時に訪問したノースシヨア身体障害者リソースセンターについてご報告したいと思います。

カナダのバンクーバーは、1979年に夫と初めて海外旅行した場所です。夫にとっても障害者になってから3年後の初めての海外経験でした。乗り物の移動などを考えて私と男性ボランティア1人同伴でのツア参加でしたが、夫が希望する列車旅行を含むツアへの参加は拒否されました。夫は妻とボランティアまで同伴するのになぜと怒りを感じていましたが、結局、バンクーバーフリータイムのツアへの参加ということで妥協しました。そして、事故の場合の自

己責任確認の念書を提出しての旅行でした。今は障害者の海外旅行も一般的になりましたが、ツア参加も難しかったところのお話です。

さて、ノースシヨア身体障害者リソースセンターは、すべての人は、その属するコミュニティにとって重要であるという信念に基づいて、身体に障害を持つ人々が、家族や友人と共にコミュニティの一員として活発に社会参加できるようにするためのプログラムとサービスを提供しています。そして、身体的・金銭的障壁や、個人の信条に関する障壁のないコミュニティの実現を目標としています。1975年に障害児の両親、専門家、支持グループがノースシヨア身体障害者協会を設立したことに始まります。ノースシヨアに住む障害をもつ人たちの居住や社会的ニーズの申し入れ、レスパイトケア、地域に基づく居住サービス、社会やレクリエーション参加へのサポートなどの取り組みを目標にして、当初は、地域のサポートによる子ども達の宿泊キャンプの実施などから始まりました。1978年に障害をも

つ5人の子どもの達のためのグループホームを始め、1992年には名称をノースシヨア身体障害者リソースセンターに変更して、現在では200人以上の障害者と家族へのサービスを提供し、サポートしていく非営利団体に発展しています。

このセンターについての説明をしてくれたのは情報とアドボカシー・サービスディレクターの電動車いすを使用しているジョン・ニューマンさんでした。ジョンさんは21歳の時に交通事故で頸椎損傷の障害者となり、28歳の時にボランティアとしてこのセンターにきて、その後22年ここで仕事をしているということでした。現在州政府が替わり、政策も変わっていく中で、介護費用への影響などの点から、予算などについての障害者情報は特に重要であり、介護費用の削減に繋がらないような改善のための働きかけを行政にしていかなければならないと熱く語っておられました。次回はジョンさんのお話を中心にセンターのサービス内容についての紹介をしていきたいと思いません。

(定藤邦子)

今年は4年に1度巡ってくる「うるう年」である。辞書によると「うるう年とは、地球が太陽を1周するのに365日5時間48分46秒だから、その端数をつんで太陽暦では4年に1度2月の日数を29日とし、太陰暦では平年を354日と定めているから適当な割合で1年を13カ月にする」とある。

「うるう年」と同じ4年に1度巡ってくるものといえば今年は夏季オリンピックの開かれる年でもあり、また大阪府知事選挙の年でもある。私は大阪府知事選挙にも大いに関心はあるが、オリンピックにも目が離せない。

今年のオリンピックは、8月にギリシャのアテネで開かれるが、アテネといえば近代オリンピックの発祥の地である。それだ

けにいつそう興味を抱くのかも知れない。

ところで小学校6年生の時に一緒だったK君の誕生日が2月29日なのである。6年生といえば12歳だが、K君は4年に1度しか誕生日が来ないのでまだ3歳にしかっていない。クラスメイトから「お前はまだ三つやから学校へ来んでいいぞ!」とよくからかわれていた。K君はその度に「4年分まとめてお祝いしてもらえるのでみんなより豪華だよ」と目を輝かせていたのを今でも思い出す。

そのK君に先日、何10年ぶりかで出会った。その時私はK君の誕生日を意識したわけではないが、なんだか同い年の自分より10歳も20歳も若々しく見えたのである。

晴れのち晴れ 65

「うるう年」に思う

稲垣 恵雄



援助の天分

大学の社会福祉学科では、どこでも社会福祉援助技術という科目が開かれている。そこでは社会福祉の場面で人をどのよう援助するか、その考え方や技術を教えるのである。



この科目には通常、演習が付随し、学生たちは少人数のグループに分かれて面接や相談の練習をする。悩んでいる人の話をどうやって聴くか、どんな質問をすればいいのかわを模範的に実演してみながら体験的に学んでいくのである。

こういう授業を十数年間やってきて私がいま思うのは「アート」としての援助技術という言葉だ。アート(Art)には芸術、技術、技巧、熟練といった意味があるが、ここでは話芸、職人芸というときの「芸」がもっとも近い意味だろう。社会福祉の援助技術は一種の「芸」だという主張はすいぶん以前からある。

つまり社会福祉の援助技術を学ぶことは「芸」を身につけることと同じだという。これは学校で、それを教える者にとつては深刻なことだ。なぜなら「芸」ならば、学校で教えられない部分が多くあるからだ。「芸」は、結局は自分で体験して学んでいくしか

ないのである。

たとえば話芸の一つである落語を考えてみよう。落語では間のとりかたがとても大事だという。しかし何秒、間をとればいいのかということは教えられない。噺(はなし)の内容によって、あるいはそのときそのときの客の様子によって、それは違ってくるからである。

一方、相談してきた人の話を聴くときにも間は大切だ。黙って相手の次の言葉を待つ時間をどのように作っていくかで面接の質はすいぶんと違ってくる。しかし、落語の間と同じで、何秒間、待てばいいという決まりがあるわけではない。もうしばらく待つ方がいいのか、それとも言葉をつけ加えた方がいいのか、相手の様子からなんとなく感じていくしかないのである。

社会福祉の援助技術が「芸(アート)」であるとする、もう一つ難しい問題がある。それは「芸」の良し悪しは天分によるところが大きいということだ。

たとえば、誰でも落語家に入門すればうまい落語家になれるわけではない。筋がいい人はどんどん伸びるだろう。しかし、もと

腹話術人形芝居

外題「ポポルの曾根崎心中」

.....
ポポル一座の大人騙しの腹話術、あの二ナガワ氏さえ、なし得なかった腹話術の人形芝居。怪しくも可笑しい、人形たちが、ポポル伊佐と繰り広げる、笑うて泣かせる人形(人情)喜劇、今ここに、新しく蘇る、近松の名作「曾根崎心中」
.....

公演日時 ; 3月13日(土)

昼の部開演 = 14時

夜の部開演 = 19時

(開場30分前)

場 所 ; トリイホール

[大阪府中央区千日前1-7-11
上方ビル4階]

チケット ; 前売 = 2000円

当日 = 2500円

チケットの取扱い・問い合わせ先 ;

ポポルの一座 / ポポル伊佐

電話・Fax 072-279-0792

携帯電話 090-1447-8012

Eメール ; poporu-isa@par.odn.ne.jp

もと落語家には似合わない人なら、いくら努力しても残念ながら大成はしないだろう。絵画でも同じことだ。絵画教室は各地にあるが、絵画教室に入って勉強すれば良い絵がかかるとは限らない。アート(芸術)には天分が必要である。一方、どんなに絵の素質があっても基本的なデッサンの方法や絵筆の使い方を知らなければ、おそらく画家として成功しないだろう。絵画教室で教えられることは、そういう基礎的なことにすぎない。

社会福祉の援助技術を教える大学でも事情は似ていて、実はその基本中の基本を教えるにすぎない。それを知ったところで援助者として優れた人になれるかどうかはわからない。それは最初の一步にすぎず、あとはその人の天分がものを言うようになる。では、その援助の天分が自分にあるのかどうか、社会福祉学科に入って社会福祉の現場で働きたいと思う人なら誰でも気になるところだろうが、この話の続きはまた次回ということにしたい。

(知)



表紙が変わりました

これは便利。

一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

誰でも参加できる場所へ

第21回

とうとう大根を収穫し、
次への芽生えが出てきました。

林 典生

2月に入ってかなり寒い日が続いておりませんが、皆様はお元気にしておられるでしょうか。植物にとっては春への準備をしている段階で、人間にとっても春への準備をしています。

昨年の秋からたった一人の受講生を相手に、コミュニティガーデンづくりを行って来ましたが、去年の12月4日、去年度の講座は無事に終わりました。

最初は不安から始まったこの1年、思い返せば、いろんなことがありました。特に周囲を見回してみるとコミュニティガーデンディアレストは順調に育って、結構立派な市民の

庭になっていきます。これはディアレストのメンバーやサポーターの皆様のお陰だと思っております。

ルッコラとハツカダイコンを収穫した後で、受講生の方とディアレストのメンバーと一緒に焚き火を囲みながら、焼き芋をし、いろんな話をしました。

因みにこの焚き火をしている木は、春に伐採したナシの木を利用しているのです。太い幹のものは少し残っているだけですが、まだまだ薪にする量は十分にあります。

また、春には弱々しく植えられていたハーブが夏を乗り越えて、大きく成長しています。近所の庭にはフェイジョアという果樹があります。

フェイジョアは常緑の熱帯性地域に育つ果樹で、果実は灰緑色の小さな楕円形をしたものですが、私がお勧めするのはフェイジョアの白い色をした花びらです。私の経験ではフェイジョアの実を食べるより、花びらを食べた方が甘く感じるので。

そんな話をしながら、楽しい一時を過ごしました。

今回は楽しかったので、来年度も開催しま

しょうと、受講生の方からお話をいただきました。また、ディアレストのスタッフの方からも、こういう講座は今後も継続しましょうと、ありがたいお言葉をいただきました。実のところ、私自身迷惑をかけているのでは、と、気にしていたので、ホッとしました。

そして、最後に、なにかとご迷惑をおかけし、いろいろと支えてくださった八幡市立川口コミュニティセンターの方々に収穫したハツカダイコンをお渡ししました。この方々からも、次回の講座があれば教えていただきましたといわれました。

ありがとうございます。

私は、皆様のこの言葉を聞いて、力強く思いい、これからもがんばろうと思えました。

カンパ、お茶菓子・バザー用品・冊子のご寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。（敬称略・順不同）
伊佐常和・悦子、笠原美和子、小島敬大、坂井正子、難波りんご、野田玲子、平岡太、松村順子、松本妙子、山本敏子、吉原和郎、その他の方々。

美智子のこんな話

岸田美智子

白紙撤回したけれど・・・

厚労省は、昨年の12月に突然グループホーム支援費引き下げと、支援費の単価の見直し案を打ち出してきました。これは、グループホームの運営費に直すと4人の重度のグループホームでは、年間約112万円ダウン、7人だと197万円ものダウンになる予定でした。

支援費の1時間当たりの単価も見直され、移動介護の身体介護あり型をなくして移動だけなら、生活援助と同じ単価にする。ただし、日常生活支援でも移動が出来るようにし、単価は生活援助ではなく、日常生活支援の単価とする。

このような事を私たちの障害者団体と打ち合わせなしに公表しました。これに対しての

抗議行動が年末の慌ただしい中、緊急に行われました。昨年の1月に厚労省は支援費の上限問題を打ち出しましたが、これに続く動きで施設

たもや私たち障害者の猛反発を受けました。その結果この案は白紙撤回され、障害福祉課

長がじきじきに障害者団体の前で説明する場面もあつたそうです。この課長は本当に今回の削減で実際にどれだけの運営費カットになるのかという質問に、慌ててその場で電卓をたたいて計算したが、その計算が2000万円と一桁間違ってしまう始末。(そもそも補助金自体が、

一カ所のグループに600万円〜800万円である) こんな課長の認識では、今後どのような施策が打ち出されるのかとても心配な状況です。

介護保険と支援費制度の統合も財政問題で押し切られそうな雰囲気です。施設から地域への転換を図っていく上

で、地域生活支援の具体的な実践・実態を踏まえさせていく事がもっとも重要だと思えます。各自で説得力のある具体的な声を一人でも多く挙げて行こうではありませんか。

○自立生活センター

MY・D O くまいどく 岸田 美智子

〒558-0002

大阪市住吉区長居西1-9-12

(キミハウス)

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

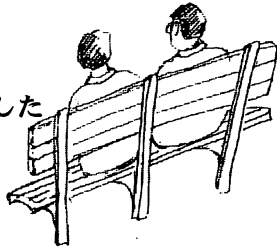


〈サロン・あべの〉へ
メリー・クリスマス

- ◎マーガレット・ポーラーさん(イギリス)
- ◎ブリジット・オーレンベルグさん(ドイツ)
- ◎あいか彩子さん(イギリス)
- ◎ハールト・ネイスさん(ベルギー)



おいしいはなし、
ごちそうさまでした



春は名のみ、雪まで降って、厳しい毎日ですが、皆様お元気ですか。いつも、サロン紙をお届けいただきまして、ありがとうございます。

山口さんの樹のはなし終わるんですね、毎回、清涼剤みたいに、イラストと共に楽しんでいました。

ところで、今回の美味しい物のはなしの特集は、ひとつ一つ想像しながら読みました。ごちそうさまでした。

寒いとはいっても、もうすぐ春ですね、出かけてみませんか。 (か)

お知らせ

<サロン・あべの>3月の出会い

内 容…自然史博物館

「自然史フェスティバル
グループ展示や体験コーナー」
の見学

(大阪市東住吉区・長居公園内
電話：06-6697-6221)

日 時…3月20日(土)午後1時～4時
集合時間=午後1時

集合場所=長居障害者スポーツセンター1階エレベーター前

会 費…なし

*障害者手帳をお持ちの方はご持参ください
申し込み・問い合わせ先…

電話 06-6691-1028 (富田慶子)

電動車いすでお参り

厳しかった寒さも日差しの明るさと共に和らいで来ました。皆様にはお変わりございませんか。新年の初詣はどちらかへ行かれましたか。私は阿倍王子神社にお参りしました。電動車いすで神前真前まで行きジャラジャラと鈴を鳴らして、今年1年の家内安全・一病息災をお願いしました。一般の神社仏閣では鈴を鳴らせる所まで行くのは難しいので、鈴を鳴らせたことに今年の幸せを感じました。何年か前に岸和田の神社でバリアフリー化を図る話を聞きました。それ以後名刹のバリアフリーについて気になるところでしたが、このほど「NPO ちゅうぶ通信」1月号の中に「世界遺産は車いすで行けるか」という欄があり、ユネスコの世界遺産に登録されている10のお寺と1つのお城の調査報告が載っていました。京都の西本願寺・東本願寺・清水寺・金閣寺・天竜寺・竜安寺や二条城、奈良の法隆寺・東大寺・薬師寺・唐招提寺などです。これらの建物には全て車いす用トイレが設置されていますが、建物の中まで入れるのは西本願寺(100%)、東本願寺(75%)、二条城(90%)だけ。清水寺は本堂には行けるが他は行けない、東大寺も大仏殿には行けるが他はだめとか。また、入り口から階段で入れない所も有りと、調査のご苦労がしのばれました。が、暖かくなればふらりと訪ねて行ける目安にしていただけだと思います。 (け)

……ききみみずきん



SALOON

関西ニュース

■「サロン淀川」3月の出会い

日時：3月21日（日）午後1時30分～4時
内容：身近な物を描いて見ませんか

～絵手紙の基本テクニックを学びませんか～

ゲスト：安光一恵氏（淀川一芸一座のメンバー）

場所：やすらぎ

大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビューロー）☎06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」3月の出会い

日時：3月13日（土）午後1時30分～4時
内容：みんなで「水彩画」を楽しもう！

場所：西区在宅サービスセンター6階

ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14（西区役所隣）

地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ

☎06-6539-8075

会費：なし

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」3月の出会い

日時：3月27日（土）

集合時間＝未定。申し込みの時間にお尋ねください。

集合場所＝JR東西線「御幣島」駅
改札口前

内容：お花見

場所：大阪城公園・西の丸庭園

会費：なし

但し、交通費・入場料・昼食代などは自己負担になっています。

問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日時：3月14日（日）午後1時30分～4時

内容：ピア・カウンセリングの実践

パネラー：秋元喜代子氏

視覚障害を持ち、自立生活支援事業に参加しています。

場所：ほほえみ

大阪市東淀川区菅原4-4-37

東淀川区在宅サービスセンター

☎06-6730-1630

会費：なし

問い合わせ先：鈴木昭二

☎06-6340-3082

FAX06-6340-3012

■「サロンいたみ」3月はお休みです

■「サロンひらの」3月はお休みです



声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で<サロン・あべの>紙第211号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) <サロン・あべの>紙は、第1号より第211号までそろっています。
- (b) <サロン・あべの>十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「<サロン・あべの>平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著=糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著=糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著=糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著=糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著=糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著=糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修=大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著=はけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著=糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著=糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著=糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン!」(稲垣恵雄著=糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博=糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著=糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 ☎06・6691・1028 まで。

寄りみち



学生の頃はくにちゃんの愛称で親しまれ、定藤邦子さんになられてからも好感度抜群の邦子さん。定藤丈弘先生が亡くなられてしばらくして、「…ん歳の手習い」を始められた。とお聞きして、なら、ぜひ原稿を。ご迷惑を省みず何度もプッシュ。その都度、「勉強中」「その器ではない」辞退され続けていたのですが、サロンの得意技、押しの一手が効いたのでしょうか? お願い出来ることになりました。(石)

<サロン・あべの>VOL. 212 発行:平成16(2004)年2月21日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:中西利香・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>